

血液由来 *Pseudomonas aeruginosa* の POT 型と病院内分布および薬剤感受性の関連性

◎千島 里佳¹⁾、川上 剛明²⁾、長南 正佳²⁾、中村 文子³⁾、三澤 成毅²⁾、石井 清¹⁾
順天堂大学医学部附属練馬病院¹⁾、順天堂大学医学部附属 順天堂医院²⁾、順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター³⁾

【目的】*Pseudomonas aeruginosa* は、化学療法中や高齢者などの易感染患者における感染症の原因として極めて重要であり、特に敗血症の場合 27.7~43.4%の高い死亡率を示す。本研究は血液由来 *P. aeruginosa* の POT 法による遺伝子型を調べ、院内分布、薬剤感受性、患者背景との関連性を検討した。

【材料および方法】使用菌株は 2014~2018 年の 5 年間に順天堂医院において血液培養から分離された *P. aeruginosa* 合計 118 株（入院由来 91、外来由来 27）であり、遺伝子型別は POT 法（シカジーニクス分子疫学解析 POT キット（緑膿菌用）：関東化学）を使用した。薬剤感受性パターンは PIPC、CAZ、MEPM、AMK、LVFX を対象とし米国 CLSI のブレイクポイントを用い、患者背景はカルテ検索と血液培養ラウンドにて診療科、病棟、侵入門戸、使用抗菌薬を調べ、POT 型との関連性を検討した。

【結果】118 株の POT 型は 93 種類に分類された。同一 POT 型が 3 株以上認められたのは、634-0 8 株、387-32 4 株および 637-0 4 株であった。薬剤感受性は 80%が 5 剤全て

に感性、他は 10 種のパターンを示し、POT 型と薬剤感受性パターンとの関連性は認められなかった。メタロ-β-ラクタマーゼ産生菌は 1 株認められ LVFX のみ感性、POT 型は 207-41 であった。診療科や侵入門戸と POT 型との関連性も認められなかった。最も多かった POT 型 634-0 は、2014 年に改築した棟の入院患者から分離されていたが、棟内の同一病棟または入院時期が重なるような例は認められなかった。

【考察】血液由来 *P. aeruginosa* の POT 型は特定の型に集積せず、特定の POT 型が血流感染を起こしやすい、または特定の薬剤感受性パターンに集積するような関連性は認められなかった。複数患者から分離された同一 POT 型の株は、院内分布に偏りがあり棟内に定着している可能性が示唆された。連絡先：03-5923-3111（内線 5281）

【会員外共同研究者】上原由紀（順天堂大学医学部総合診療科学講座）、三井田孝（順天堂医院臨床検査医学科）、小倉加奈子（順天堂大学医学部附属練馬病院臨床検査科）